

3月の行事予定

日(曜)	行 事 内 容	日(曜)	行 事 内 容
1日(日)	春の全国火災予防運動(2月28日～3月13日)	11日(木)	寝たきり老人、一人暮らし老人の布団乾燥事業(文化会館) 集団献血(市役所前庭)
2日(月)	都留文科大学卒業認定会議(文科大学)	15日(日)	市民バドミントン大会(文科大学)
3日(火)	社会教育研究大会(文化会館)	16日(月)	発明相談(10:00～3:00) 第一会議室 教育委員会(教育長室)
4日(水)	都留文科大学教授会(文科大学)	17日(火)	広報委員会(第一会議室) 都留文科大学教授会(文科大学) 社会保険出張相談(市民課) 市内中学校卒業式
5日(木)	都留文科大学卒業合格者発表、教育職員免許状取得者発表 法律相談(1:00～3:00) 第一会議室	18日(水)	不用犬・猫の巡回収集(市内21か所)
6日(金)	下々見会婦人学級(年金の知識) 文化会館	19日(木)	大学入試第二次学力試験合格発表(文科大学)
7日(土)	消防記念日式典(甲府市)	20日(金)	行政相談(1:00～3:00) 盛里出張所 人権相談(1:00～3:00) 第一会議室
8日(日)	大学入試第二次学力試験(都留文科大学)	23日(月)	都留文科大学第19回卒業式(文科大学) 農家台帳の整理(農業委員) 第一会議室～25日
9日(月)	三月定例市議会開会(10:00～) 議場	25日(水)	民生委員協議会総務会、社会福祉協議会理事会(文化会館)
10日(火)	月見ヶ丘婦人学級(手芸) 月見ヶ丘公民館		

ふるさとづくり コーナー

原始の郷土に想いを寄せて

埋蔵文化財の発掘調査は、毎年大規模に行なわれて、縄文・弥生式土器が、市内各地から多数出土しています。これらの土器は、道具を使うことを覚えた古代人が、原始的な生活を営むうえでの必需品であると同時に、最初の芸術作品でもあったわけです。

この時代は、社会組織、生活行動、人間関係ともに、現代ほど複雑ではなかったのに、人々はおおらかな素朴さで、創造の喜びに浸っていたに違いありません。

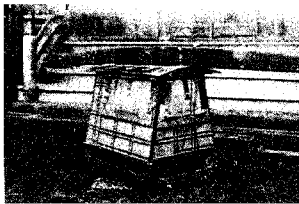
縄文土器のシンプルな文様、赤褐色を呈した弥生式土器の可憐さ。

こういった原始芸術に魅せられて、郷土の山野から材料を求め、陶芸の製作に携って、話題を集めている人がいます。

この人は盛里地区の、平井隆さん(28)で、自ら后秀焼道場を開いて趣味を同じにした人たちの指導にあたっています。古代人の、物にこだわらない、自由的な生き方に憧れてこの道に入った平井さんは、作風も自由な題材のものが多くみられます。織部焼、益子焼等陶芸が静かなブームをよんでいる最近では、仲間も増えてきて、土と語らう喜びを分かちあっています。

ふるさとカレンダー

三月 写真説明



お駕籠(かこ)

江戸時代中期のものと思われる駕籠で、西願寺蔵。

寺の住職が法事、あるいは登城などの際使用したもので、前後三人づつで担ぐようになっています。

重さは約五十キログラムで、周囲には、寺の紋章などが飾られています。

旧谷村町を中心に、城下町として栄え、歴代谷村城主が、神仏への信仰が篤かったこともあって、市内の寺には、このような駕籠がいくつかが現存しています。



平井さんは学生時代に、内なるものからの創造」というテーマに目ざめて、経済学とは全く無関係な、陶芸の道に足を踏み込んでいきました。瀬戸の窯元で二年間、まさしく血の滲むような修業を積み、そこで窯元になることも夢見たのですが、やはり、ふるさとの地で土のぬくもりを感じながら創造することに意義があると悟り、二年前に現在の后秀焼道場を開設しました。道場といっても、わずか四十平方メートルのプレハブ建物に陶窯一基と轆轤台(ろくろだい)一台を備えただけの質素なものです。

しかし、創作活動に精力的に取り組んでいる姿からは、熱気が伝わってくるようです。

コンピュータによる陶芸作品の制作も可能となっている現在、素朴な味わいのある陶芸に打ち込む平井さんの夢は、気の合った仲間と原始芸術の村づくりをすることにあるそうです。